

横須賀市消防局 地震体験車

地震体験車は、車体に内蔵した部屋が揺れることで、地震の揺れ（最大で震度7）を体験できる車両です。

大きな地震の揺れを体験し、地震が実際に起きたときに「**命を守る行動**」を身に付けてください。また、皆さんの**ご自宅の安全対策**について見直すきっかけとしてください。

○ 「命を守る行動」について

大きな揺れを感じたら



大きな揺れを感じたら、まず姿勢を低くして、転倒によるケガを防ぎましょう。



落下物などを頭部に受けると致命傷になります。机やテーブルの下に入ったり、持っているカバンなどで頭部を守って頭のケガを防ぎましょう。



地震の揺れは、一度収まったように感じても、再び大きく揺れることがあります。完全に揺れが収まるまで動かないことが重要です。

※ 従来、「地震だ、火を消せ！」など、地震がおきたらすぐに火を消すことが重要とされてきましたが、揺れている中での消火行動は、大やけどを負うなどとても危険です。
例え天ぷら中であっても揺れが収まってから消火してください。
(天ぷら油がこぼれるだけでは火災になりません。)



【地震体験車に乗る前に．．】

とても激しく揺れるので、次の方の乗車は、お控えいただいています。

- ① 2歳以下のお子さま
- ② 心臓疾患のある方
- ③ 飲酒している方
- ④ 妊娠している方

【地震体験車に乗ったら．．】

- ・揺れている間は、決して**立たない**でください。
- ・机の下に入る際は、ヘルメットを着用してください。
- ・ふざけないでください。
- ・運営者が、危険だと判断した場合には、**緊急停止**させます。

【乗車可能人数等】

大人4人（または合計280kg）まで同時にご搭乗いただけます。

○ 「ご自宅の安全対策」の例

いますぐできる地震対策の例を紹介します。

① 高いところにもものを置かない

タンスの上など、自分の目線よりも高いところに物をおくと、地震の揺れで落下してケガをする可能性があります。
落ちて当たってもケガをしない軽い物以外は、置き場を変えるようにしましょう。

② （背の高い）家具が倒れないようにする

タンスや書棚、冷蔵庫など、背の高い家具や家電は、地震の揺れで倒れないよう、転倒防止器具を使うなどの対策をしましょう。
転倒防止器具は、ホームセンターや家具・家電の販売店にご相談ください。

③ 背の高い家具の近くで就寝しない

タンスや書棚など、背の高い家具の近くで就寝すると、これらが倒れて致命傷を負ったり、脱出困難になる場合があります。転倒防止措置をしても完全ではありませんので、背の高い家具等の近くでは就寝しないようにしましょう。

④ カップボード等の家具のガラスに飛散防止フィルムを貼る

揺れが収まった後に、割れたガラスや食器が床に散乱していると、足を負傷してその後の避難行動ができなくなります。
家具にガラスがはまっている場合は、飛散防止フィルムを貼ると、割れてもガラスが飛散しません。

⑤ 自宅内ではスリッパを使う

ご自宅内では、できるだけスリッパを使用しましょう。地震で割れたガラスや食器で足を負傷することを防ぐことができます。
裸足で過ごす方は、就寝場所にスリッパや靴を置いておきましょう。

こわさをし、じゅんぶを始めよう！

今日の体験が 未来のあなたを救う。

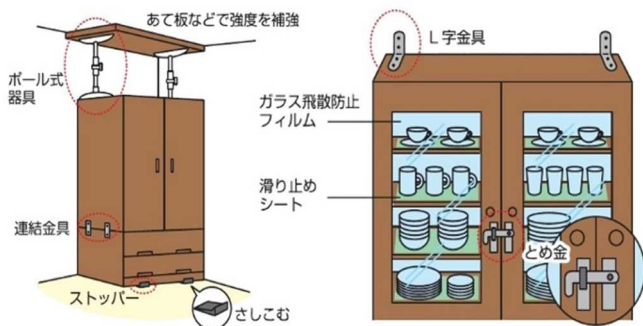


体験時にヘルメットをかぶっていないときは

机の下には入らず、イスに座ったまま
手すり・机につかまってください。



事前の対策



家の中で、地震があったら落ちてくる
ものや倒れてくるものはありませんか？
地震が起きる前に備えましょう！

地震が起きたら



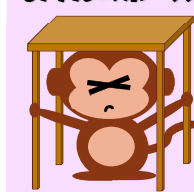
頭を隠す場所がないときは
ダンゴムシのポーズ



身を低くして、“頭を守る
ポーズ”をしましょう！
イスに座ったり立ったまま
だと転んで危ないよ。



机の下にもぐったら
おサルスのポーズ



イスやテーブルの下にもぐったら、
必ず脚にしがみつきましょう！
固定されていない家具は、揺れと
ともに滑って戻ってくるよ。

場所によって違う身の守り方

屋外では

- ブロック塀など倒れてきそうなものから離れる
- 看板やガラス窓から離れる
- 頭丈そうなビルそばにいる場合は、ビルの中に入る

自転車運転中では

- ブロック塀など倒れてきそうなものから離れる
- 看板やガラス窓から離れる
- 頭丈そうなビルそばにいる場合は、ビルの中に入る

自動車運転中では

- あわててスピードをおとさない
- ハザードランプを点灯し、周りの車に、注意を促す
- 急ブレーキはかけず、ゆるやかに速度をおとして左側に停車する

鉄道・バス乗車中では

- つり革、手すりにしっかりつかまる

人の大勢いる施設では

- 係員の指示に従う
- カバンなどで頭を保護する
- 割れ物の陳列棚から離れる
- あわてて出口に走り出さない

エレベーターでは

- 最寄りの階に停止させ、すぐにおりる

山やがけ付近では

- 落石やがけ崩れが発生しそうな斜面から離れる